

日本人殉教者の聖遺骨について

三〇

成田 勝

マニエル・テイセイラ神父は、マカオ紹介のパンフレットのはじめに「日本の一〇〇年にわたるキリシタン時代、マカオは宣教師往来の基地として発展し、ここで日本人神父が養成されたし、後には日本から追放されたキリシタンと日本人殉教者の聖遺骨の安息の場所にもなったが、これらのことについてはほとんど知られていない」と述べ、マカオを訪れる日本人観光客の見学場所として先ず聖パウロ教会跡をあげ、ついで博物館、司教座聖堂、聖ヨセフ教会についてふれている。⁽²⁾

この小論では、司教座聖堂の納骨堂に納められている日本人殉教者の聖遺骨についてとりあげてみたい。

註 (1) マニエル・テイセイラ神父「マカオのキリスト教史における日本人についての覚書」(英文)(リスボア 一九七五年)

(2) 松田毅一著「黄金のゴア盛衰記」(中公文庫 昭和五二年)を参照されたい。

一五五五年頃ポルトガル人は広東市場を背後にひかえたマカオに定着、中肉の絹と日本の銀との交易にあたった。一七世紀にオランダが進出するようになるまでの約五十年間、マカオ貿易はポルトガルに独占されていた。

イエズス会に対するポルトガル国王の財政的援助が不十分なため、同修道会ではポルトガル貿易に投資し、その収益によって布教活動を維持してゆかざるをえなかった。したがって日本イエズス会とマカオとはその面からも不可分の関係にあった。

納められている日本人殉教者の聖遺骨のリストをとりあげているが、これらの箱はさらに六十余年後の一八〇六年一月二九日、マカオ司教ドン・フランシスコの命令によって開けられ、リストと照合された。⁽¹⁾

リストには五十九名の教氏名が挙げられており、そのうち三十名については殉教地と殉教年次を確認することができた。それは次のとおりで、数字はリストの番号である。

八代 一六〇三年（慶長八年）⁽²⁾

武田 11 シモン、22 ジョアンナ

南 46 ジョアン、50 マダレナ、26 ルイス

八代 一六〇六年⁽³⁾

渡辺 20 ジョアキム、45 トメ、25 マチアス、23 ミゲル

八代 一六〇九年⁽⁴⁾

三石 33 ミゲル

平戸 一六〇九年（慶長一四年）⁽⁵⁾

西 56 ガスパル、57 ウルスラ、5 ジョアン

有馬 一六一二年（慶長一七年）⁽⁶⁾

北 13 レオン

有馬 一六一三年⁽⁷⁾

小田 12 トメ・タビョーエ、58 マチアス、15 マルタ、44 ジュスト、16 ヤコベ

高橋 35 アドリアン、1 ジョアナ

林田 8 レオン、27 マグダレナ、9 ヤコブ

武富40レオン、24パウロ、49パウロ

折木4トメ

口ノ津 一六一四年（慶長一九年）⁽⁸⁾

2ペトロ休庵

豊後 一五八九年（天正一七年）⁽⁹⁾

55ジヨラン豊後

註 (1) マニユエル・テイセイラ神父 前掲書一六頁。聖遺物を納めていた箱は聖パウロ教会の聖フランシスコ・ザビエル礼拝堂に安置さ

れていたが、一八三五年の火災の際、聖アンソニー教会に移され、現在はマカオ司教座聖堂内の小礼拝堂に置かれており、見学できる。

(一一七頁)

(2) レオン・パジエス「日本切支丹宗門史」（上巻）（岩波文庫、昭和三五年）

一〇九頁から一二四頁まで。なお「アグネス」はリストにない。

「（シモンの）遺骸は直に埋葬されたが、後間もなく長崎に送られ、イエズス会の修練所たる諸聖人の天主堂に納められた」（一一六頁）他の殉教者の遺骸も同じように、長崎か有馬に送られた。その後慶長大追放にあたり、出帆三週間前「一六一四年十月十四日、イエズス会の神父達は、諸聖人の天主堂、その他の天主堂にあった沢山の^{レリクツク}聖骨と、故人になった司教や神父達の遺骸を掘出して、安全な場所に移した」（三五四頁）

(3) レオン・パジエス 前掲書 一八四、二四五頁

(4) レオン・パジエス 前掲書 二二六頁 このとき同時に殉教したトマス三石、ヨハネ服部とその子ペトロはリストにない。

(5) レオン・パジエス 前掲書 二三四頁

(6) ペドゥロ・モレホン「日本殉教録」（キリシタン文化研究会 昭和四九年）第二、三章

(7) ペドゥロ・モレホン 前掲書、レオン・パジエス 前掲書二一頁から三二四頁まで。

「折木トメ」は「トマス・カワカミ」と同一人物ではあるまいか。「肥後に住んでいたトマス・カワカミは、八年前暴君主計のため追放され、有馬の領内に退去し、イエズス会に属する折木の天主堂の門衛であった」(三一四頁)とある。改名していたのであるまいか。

(8) ペドゥロ・モレホン 前掲書 第四、第五章。

(9) ジアン・クラッセ「日本西教史」(太陽堂書店 昭和六年)では「ジョラム・マカマ」(四九九頁)、ルイス・デ・グスマン「東方伝道史 下巻」(養徳社 昭和二〇年)では「聖ホラン」(四六九頁)、ルイス・フロイス「日本史第八卷」(中央公論社 昭和五三年)では「ジョラン」(三〇三頁以下)

このうち「日本西教史」では「(ジョラム・マカマは殉教後)四年を経て後此遺骸をワリニャン大師に付託しければ、大師之を美麗の棺に納め有馬の僧学校に送致し、此に於て國中の信者悉く集會して埋葬式を行いたり」(五〇〇頁)と。

リストの「ジョラン豊後」は「ジョラム・マカマ」で、これは天正時代、豊州高田(大分市高田)の刀鍛冶中摩統行ではあるまいか。(山田正任 図説豊後刀 雄山閣 昭和四九年、四四六頁)

なおリストには「39 エステバン・ミタライ(御手洗)」の名がみえる。いわゆる「エステバン事件」(一五七六年九月九日〔天正四年八月十七日〕付、パードレ・フランシスコ・カブラルが口ノ津よりポルトガルの耶蘇会のイルマン等に贈りし書翰)〔村上直次郎訳「イエズス会士日本通信下」雄松堂 昭和五三年、三〇三頁〕の当事者か。しかしこのときエステバンは殉教しなかった。

三

以上がリストについて判明したものであるが、なおこのほか当時多数の殉教者があり、そのうち遺骨が長崎に運ばれた例として、一六一二年有家のミカエル・イトー、マチアス・コイチ、一六一四年筑前博多のトーマス・シヨエモン、ヨハキム・シンドウ、秋月のマチアス・シチロービョーエ、豊後のベネディクチノ、深掘のルイス・ミネ等がみられるが、リストには挙がっていない。あるいは長崎に埋葬されたままであったかもしれない。

キリシタンに対する迫害は、関ヶ原の戦い以後、幕藩体制が確立されるにともないよいよ激しくなってくるが、一六一四年（慶長十九年）の大追放にいたる約十年間は「全国挙げてキリシタンであった」⁽²⁾有馬を中心とするものであった。したがってリストの上で確認できなかった殉教達の多くもまた有馬領（島原半島）の人達ではあるまいか。

註 (1) レオン・パジェス 前掲書上巻 二八四、三三九、三四〇、三七四、三七四頁

(2) レオン・パジェス 前掲書上巻 一五五頁

附記 マニユエル・テイセイラ神父の「覚書」は、ドンボスコ学園中学校校長カトリック司祭 溝部脩氏に貸していただいた。心から感謝申し上げます。

（大分県総務部総務課県史編さん班非常勤嘱託

当会出版物のご案内

（会員一、八〇〇円・会員外二、五〇〇円）

【会 告】

- 大分県地方史料叢書(3)「豊前国村明細帳」(一) (下毛郡宮園村等所収)
宇佐郡下麻生村
- 大分県地方史料叢書(4)「元禄・天保 豊後国 豊前国 郷帳」(正保郷帳と並ぶ必携史料)
- 大分県地方史料叢書(5)「佐伯藩温故知新録・古御書写 臼杵藩旧貫史(1)」(藩別の必見史料)
- 大分県地方史料叢書(6)「豊後国旧管地沿革記・附録・豊後国各郡沿革記」(旧高旧領取調帳の誤りを正す基本史料)

※このほか大分県地方史料叢書(1)(2)の村明細帳シリーズも残部があります。